



ニッポンの事業競争力を強くする！ 事業継続等の新たなマネジメントシステム規格とその活用等による事業競争力強化モデル事業

事業概要

各グループ概要

取組紹介

イベント

事務局通信

メディア掲載

report: 一般社団法人地域問題研究所

石油化学コンビナートにおける企業連携BCMSと個社BCP

運営事務局
 滝沢 紀子

こんにちは。運営事務局の滝沢です。

先日初めて地域問題研究所グループを訪問し、四日市霞コンビナート事業継続力強化研究会と、霞共同事業株式会社様の個社BCPの策定支援に参加しましたので、それぞれの取組についてご紹介いたします。

四日市コンビナートは、3つのコンビナートで構成される日本最古の石油化学コンビナートで、今回の取組の対象は「霞コンビナート」と通称される第3コンビナートです。

霞コンビナートはいわゆる出島に立地しており、霞大橋という一本の橋で陸域と繋がっており、石油化学製品の原材料の他、電力等のインフラ関係の需要供給を行っています。いったん災害に見舞われると各社の事業が連鎖して寸断してしまう危険性が非常に高いため、コンビナート全体でのBCMSを検討する必要があります。

四日市・霞コンビナート事業継続力強化研究会は、今回が第2回目になり、これまでの取組の報告と、研修参加者のアンケート結果が発表されました。活動を通じて、「BCPに関する知識が深まった」「各社の考え方を互いに理解できた」という意識面の変化と同時に、「やればやるほど課題が出てくる」「どのように継続させるかが問題」等、取組を深めていくことの難しさも伝わってまいりました。また、参加していた行政担当者の「企業が団結して訴えることで、道路工事や橋の増設の実現が早まる可能性は高い」という発言が印象的でした。この言葉に、企業と自治体が同じ方向を向いて進んでいく道筋が見えたように思いました。

一方、コンビナートの参画企業である霞共同事業株式会社様が、個社BCPの策定を進めており、そのコンサルティング支援にも参加しました。同社はコンビナートの共同施設管理運営と防災、警備を担っており、それぞれの事業部長が参加していました。特に排水処理が停止すると他社のどの事業も再開できなくなってしまう上、災害時には防災や警備業務が不可欠になるという非常に重要な役割を担っているため、個社としてBCPの策定に取り組みははじめました。

しかし策定は決して楽な道のりではありません。例えば、排水処理には電力が不可欠であり、初動部分では代替策を講じることができても、事業継続策では電力を供給している他社の復旧に依存せざるを得なくなります。そのため復旧目標を決めづらく、難航する場面も多々ありました。社長と事業部長の皆様が真摯に議論されている姿からは、発災時に先頭に立って復旧を行わなければならない、自社だけでなく運命共同体として他社の復旧を支援する使命感を担う危機感が伝わってきました。

現在、日本全国には15の石油化学コンビナートが存在しており、それぞれ似通った問題や課題を有しているのではないかと思います。企業間連携と地域連携など、今回の霞コンビナートの取組が問題・課題解決へのモデルとなり得ることを期待してお



四日市・霞コンビナート事業継続力強化研究会



霞共同事業株式会社様 個社BCP 策定の様子

ります。🔥